

検討結果意見交換

2006年度協働事業提案に関する検討結果説明会

プログラム

- はじめに
- 市からの検討結果説明
 - 市長説明
 - 協働推進会議代表あいさつ
- 協働事業のさらなる発展に向けて
 - 市長との意見交換
- 提案事業に関する意見

- 協働事業のさらなる発展に向けて - 市長との意見交換 -
- (司会) 推進会議、市長と会場のみなさんと意見交換をしていきたい。
- (委員) 推進会議で昨年した議論のポイントは、できるだけ協働事業をみんなで知恵を集めて進めていきたいということであった。今年度は、ほぼ全てが協働事業となることができた。継続事業については、これまでの協働事業の経験をどのように活かすかが課題。また行政提案が増えてくることで、協働事業が本格化してきた。そこで、協働事業と従来行政が実施してきた事業の関係をどのように整理するかを、具体的に議論する段階に来たと思う。
- 新しい公共というのは、行政だけが担う公共ではなく、市民も事業者もともに担うということである。この点で本質的な議論が必要となっている。大切な事業だから、行政が担うと考えるのか、重要なものほど協働でやろうと考えるか。この部分は、阪神淡路大震災のときの行政対応として顕在化した。行政だけでは取組めない公共の意味合いをもつものがある。この部分が協働。この本質的な議論をすることが、行政改革にもつながっていくと考える。
- (市長) 協働というのは、古くて新しい問題。国と地方自治体との関係でも同様なことはある。この問題はずっと問われる。実践の中で議論をしていくのが、大和市の姿である。走りながら考えている。互いが、奪い合い、また押し付けあうのではなく、分担し合う姿、パートを受け持つパートナーとなることが大切である。
- (参加者) 協働事業に関するリスクについて、聞きたい。協働事業は協定を締結し事業を進めていくという関係にあるが、事故が起きたときに、誰がどのように責任を取るのが考えられていないところもある。
- (市長) リスク対応について、条例制定段階で抜けているとしたらそれも協働責任と考える。それそのものの具体的な状況に応じて、逃げることなく責任を考えていくということになるだろう。やらない理由にするのではなく、お互いにどうするかを考えていくべきことだろう。担当者の腰が引けているという話はあると思う。与えられた仕事のみをこなすことに慣れてしまっている。市民と一緒にやるのは嫌だという職員意識改革をするのも市民の役割だと思う。一番有効なのは、市民の目である。協働事業を通じて職員意識改革をしてほしい。
- (参加者) リスク回避のことについて行政に苦情を伝えているのではない。リスクのことについて、最低限のマニュアルは必要だと思う。
- (市長) 普通だと市民が行け行けとなるが、逆に市民が心配し、職員がとにかくやってみようというのであれば、職員もすてたものではないと思った。
- (参加者) 市との関わりが多い人の声だけで協働事業が行われることにならないか。一年中、協働の種を捨てるような工夫が必要ではないかと思う。
- (市長) 間接民主主義の状況下では、市民の代表である議会の声を聞いていればよかったが、今はそれだけでは満足されない。タウンミーティング、市長への手紙を実施し、できるだけ多くの市民の声を聞く努力はしている。日々机の上に積まれている半分は市民の声であり、なるほどと思われるものは、できるだけ公開して取組むようにしている。市民の中には必ず違う意見がある。これを話し合ってもらおうのが民主主義であると考えている。一部の意見、少数意見であってもできるだけ聞くようにしている。
- (司会) 協働事業も4年目を迎え4歳になったが、4歳といういろいろなことを考え、疑問を持つようになる歳になったということだと思う。みなさんも協働事業をよりよいものとするためにご協力をお願いしたい。
- (参加者) 提言の中に、事業へのサポートということがあがるが、事業へのサポートはどうなっているのか。また、新しい公共とは何か。
- (委員) 協働事業のサポートについては、大和市民活動センターで、みなさまの相談に乗るようになっているが、まだ不十分なところもある。これから充実していきたい。
- (市長) 「新しい公共」については、大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例の前文に詳しく説明がある。世の中には、いろいろな能力を持った市民が多くいて、これを社会資源と考え、これを持ち寄り、活かしていくのが新しい公共であると考えている。

協働事業に関する意見交換
[新規市民提案事業]

検討結果意見交換

- (事業N01：提案者) 教育委員会指導室の回答の中に、現在積極的に薬物乱用防止教育に取り組んでいると書かれているが、具体的にはどのようなことをしているのか。
- (指導室) 10年前から取り組みはしてきている。具体的には、「水谷先生」を招いて講演を行ったり、病院の医師を招いて講演を行ったり、先生が授業をしている。小学校においては、タバコの害について話をするなど発達段階に応じた対応をしている。
- (参加者) 確かに学校では、年1回取り組みを行っている。また薬物の恐ろしさについては中学校では徹底しているが、社会人になってからの薬物対策が不足していると感じる。

[新規行政提案]

- (青少年センター) 建設事業が進んでいる。基礎工事が終わり、少しずつツリーガーデンがイメージできる姿になってきている。この事業は、地元の建設委員会のメンバー等、市民の社会資源が活かされた事業であると自負している。
- (中部浄化センター) 現在、大人と子どもと応募がある。参加については、かなり期待できそうである。今後は周辺自治会にも声をかけていきたい。近隣の人が自由に遊べる空間になればよいと考えている。お金はないが、市民の皆さんの知恵と力を借りて、子どもを育てるように事業を実施していきたい。
- (市民活動課) アドバンスメンバー・サポーターメンバーの合計12名の応募があった。これからがスタートとなる。様々な人が集まっているので、1つのチームを作っていくことは難しい面もあるかもしれないが頑張っていきたい。
- (水と緑課) 近隣に愛されるドッグラン施設にしたい。様々な団体等によって検討を進めている。いろいろな意見が出ることに期待している。
- (安全なまちづくり課) 3団体からの問合せがあった中、1団体からの応募があった。この場で、協働事業のパートナーが、ガーディアンエンジェルズ神奈川本部大和支部に決定したことを報告させていただく。他の団体についても、今後協力関係を育んでいきたい。

[継続市民提案]

- (参加者) 協働事業は市と市民が力を合わせてやっていくものだとする業務委託は協働事業の主旨に合うのか。
- (委員) 協働は対等の関係で実施するということであるから、従来のような行政が内容を決めてしまうような委託では協働にならないことははっきりしている。協働事業では、条例に基づく協定を締結することになっている。
- (参加者) 事業委託では、協働事業とまらないのではないか。
- (司会) ある部分で便宜上業務委託の形態をとっていた事業もあるが、それは従来のような委託の形ではなく、協議の中で事業内容が決定されていた。
- (参加者) 他の例でも委託を協働事業として認めていくのか。
- (司会) ケース バイ ケース ということ
- (生涯学習センター) 現状では協定に基づく負担金で処理している。委託ではない。将来的に費用負担の関係から委託という可能性についても検討している。
- (参加者) 14の協働事業の提案があるが、今後予算が決定された時は、予算の内容が分るものは最低限つける必要がある。インターネットを活用して情報の提供をしてほしい。
- (委員) 大和市の市民活動課のウェブサイトに詳細に公開されている。協働事業の大部分は、公開されている。予算については、最終的には議会で審議されている。
- (参加者) 大和市のウェブサイトの情報量が多いが見にくい。サイトの構成を考えてほしい。
- (事業N012:提案者) 今回は4年目にはいったが、子育て支援の集団として、活動してきた。朝から晩までいろいろな支援内容に対応し、走りまわっている。市として考えているファミリーサポート支援事業との調整をしていきたい。
- (事業N03:提案者) 協働事業の可能性に期待している。行政職員も楽しく仕事ができるような協働事業をしていきたい。
- (事業N013:提案者) まだニーズの掘り起しが足りない。もっと輪を広げていきたい。市内で同じようなNPO団体が3つある。立ち上げの理由は異なるが、活用内容はほぼ同じである。われわれは自分のもっている車を提供して事業を実施している。
- (事業N014:提案者) 市には非常に感謝している。